

グリーンスペースを施策の中心に据える

具体例 Concrete plan



これまで公園緑地は防災や生物多様性といった機能論による存在価値で評価されがちでした。しかし、WHOが公園緑地の効果を検証するなど、公園緑地は様々な社会課題を解決できる都市施設と捉えられます。人類は長い進化の過程で得た身体のみで、産業革命以降短期間で発展した文明社会を生きています。暮らしが快適になった一方、現代の暮らしに身体がマッチせず、生活習慣病をはじめとした課題が生じています。これらを解決するには、身体にマッチした”住むところ”を構築しなければなりません。これには公園緑地とウェルビーイング向上を施策の中心に据える必要があります。

公園緑地のマネジメントは公園部局だけで行う時代ではなくなっています。関係部局の横断的主体的参画により公園を核としたローカルプランを推進し、これまでのパーク・イン・ザ・シティからシティ・イン・ザ・パークへの転換を実現します。

大ロンドン市の政策

公園は、人々が運動し、社交し、リラックスし、コミュニティを楽しむ機会を生み出しています。そうすることで、人々は心身の健康を改善します。ロンドン市民は、公共の緑地のおかげで、NHS（イギリスの国営医療制度）の医療費で年間9億5千万ポンド（約1600億円）を軽減しています。環境・エネルギー担当するC.ロドリゲス副市長は「都市緑地の価値に関する近年の研究は、公園や公共スペースが市民の健康、環境、生活の質だけでなく、都市の不可欠なインフラストラクチャとしても、いかに重要であるかを証明しています。これが、市長がグリーンベルトを保護し、ロンドンを世界初の国立公園都市にし、信じられないほど貴重な緑地を増やして維持することを約束した理由です。」と述べています。